

授業科目	家族・児童福祉特講 Welfare for Family and Child			担当教員	梅野 潤子		
展開方法	講義	単位数	2単位	開講年次・時期	1・2年/後期	必修・選択	選択
授業のねらい							
<p>本科目のねらいは、生活支援を通して子どもの人権を護る、児童ソーシャルワークに必要な価値・知識・技術を修得することにある。自己及びウェルビーイング実現に向けての支援及び社会デザイン力の向上を図るために、子どもの参加する権利を価値基盤に据えた、子どもと家族・地域の協働による実践アプローチの原則を学ぶ。</p> <p>実践と政策において児童ソーシャルワークの価値をどのように具現化するかについて理解するために、英語文献を含む専門書の講読による学修を行う。その際、イギリスの児童ソーシャルワークを中心に扱う。</p>							
観点	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
関心・意欲・態度	児童ソーシャルワークの価値を応用することができる。 継続的な学修により、高度な専門力を目指す意欲と姿勢を維持することができる。				ディスカッション 授業態度・参加度	10% 20%	
思考・判断	児童ソーシャルワークの価値・知識・技術の関連を、実践と政策の文脈から把握することができる。				レポート	10%	
技能・表現	子どもの参加する権利を尊重した協働実践アプローチの原則を応用することができる。				レポート 質疑応答	10% 10%	
知識・理解	児童ソーシャルワークの価値・知識・技術を修得することができる。 児童ソーシャルワークに関する専門書を読解することができる。				ディスカッション 輪読報告	10% 30%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>「授業態度・参加度」(20%)は文献講読等の宿題への取り組みと主体的な授業参加、「輪読報告」(30%)は講読する文献の担当箇所のレジュメ作成及び発表、「質疑応答」(10%)は輪読報告の際の質問に対する応答内容、「ディスカッション」(20%)は授業内の発言内容と貢献度、「レポート」(20%)は子どもの参加と協働に関する実践アプローチを応用した事例研究を評価対象とする。</p>							
授業の概要							
<p>本科目では、文献の輪読を主な手法とする。併せて、担当教員が関連する参考文献や視聴覚資料等をもとに補足的な情報提供を行う。それらを踏まえ、受講生が文献の担当箇所について理解した内容及び考察をレジュメにまとめ発表した上で、受講生全員でディスカッションを行う参加型の授業である。</p> <p>具体的には、子ども参加型・協働型の児童ソーシャルワークをテーマとし、イギリスの実践と政策からその価値・知識・技術を学ぶ。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：授業中に適宜文献資料を配布する。 参考書：Munro, Eileen (2011) <i>"The Munro Review of Child Protection: Final Report A child-centred system"</i>, The Stationery Office. 田邊泰美 (2019) 『現代イギリスの児童虐待防止とソーシャルワーク』 明石書店. 伊藤淑子 (2009) 『21世紀イギリスの子どもサービス』 ドメス出版. その他、授業中に適宜提示する。</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>学修効果を最大限にするために、授業中に指定された文献は、担当か否かに関わらず毎回必ず読み、分からない単語や専門用語は調べた上で参加すること。また、担当箇所のレジュメやレポート等の成果物は、提出期限等の指示に従って適切に提出すること。</p> <p>児童ソーシャルワークをテーマとして取り上げるため、生活者としての子どもの視点を大切にして授業に臨んでほしい。児童虐待防止や社会的養護等、子どもの権利と生活支援に関心を持ち、日頃から関連情報に積極的に触れることを期待する。</p>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	受講生同士の関心事項を共有し、文献の選定及び授業の進め方について協議・決定する。	予習：本科目で学びたいことを整理する。 復習：シラバスを熟読する。
2	児童ソーシャルワークの歴史①	イギリスにおける児童ソーシャルワークの歴史について、20世紀半ばまでの歩みを理解する。	予習：指定文献を講読する。 復習：学んだ用語や概念を整理する。
3	児童ソーシャルワークの歴史②	イギリスにおける児童ソーシャルワークの歴史について、20世紀半ばから現在に至る歩みを理解する。	予習：指定文献を講読する。 復習：児童ソーシャルワークの歴史を整理する。
4	児童福祉政策の理解①	イギリスの児童福祉政策の全体像を、児童ソーシャルワークの歴史と関連付けて理解する。	予習：指定文献を講読する。 復習：政策の概要について整理する。
5	児童福祉政策の理解②	イギリスの近年の児童福祉政策の動向を理解する。	予習：指定文献を講読する。 復習：重視されている政策とその内容を把握する。
6	児童福祉の政策評価	イギリスにおける児童福祉政策の評価報告書、いわゆる「ムンロー・レビュー」(Munro 2011)の概要を学ぶ。	予習：文献(Munro 2011)第1章を講読する。 復習：文献及びディスカッションの内容をまとめる。
7	効果的な児童ソーシャルワークの原則	子どもの保護と福祉向上に資する実践及び政策の原則について理解する。	予習：文献(Munro 2011)第2章を講読する。 復習：文献及びディスカッションの内容をまとめる。
8	児童ソーシャルワークの専門性	児童ソーシャルワークの専門性と、それを重視した政策の在り方を学ぶ。	予習：文献(Munro 2011)第3章を講読する。 復習：文献及びディスカッションの内容をまとめる。
9	サービス改善のための取り組み	現行の実践・政策を改善するための取り組みについて学ぶ。	予習：文献(Munro 2011)第4章を講読する。 復習：文献及びディスカッションの内容をまとめる。
10	予防的支援	子どもと家族に対する予防的支援の在り方について学ぶ。	予習：文献(Munro 2011)第5章を講読する。 復習：文献及びディスカッションの内容をまとめる。
11	児童ソーシャルワーカーの育成	児童ソーシャルワーカーの養成や継続教育の在り方について理解する。	予習：文献(Munro 2011)第6章を講読する。 復習：文献及びディスカッションの内容をまとめる。
12	児童ソーシャルワークを支える政策	児童ソーシャルワークを支える政策の課題と今後の展望について学ぶ。	予習：文献(Munro 2011)第7章を講読する。 復習：文献及びディスカッションの内容をまとめる。
13	児童ソーシャルワークの展望	児童ソーシャルワークが抱える諸課題と、それを乗り越えるための提言、今後の展望について理解する。	予習：文献(Munro 2011)第8章を講読する。 復習：文献及びディスカッションの内容をまとめる。
14	レポート①	子どもの参加と協働に関する実践アプローチを応用した事例研究の成果を発表し、受講生全員でディスカッションを行う。	予習：事例資料を作成する。 復習：ディスカッションの内容を踏まえ、レポートを修正する。
15	レポート②	子どもの参加と協働に関する実践アプローチを応用した事例研究の成果を発表し、受講生全員でディスカッションを行う。	予習：事例資料を作成する。 復習：ディスカッションの内容を踏まえ、レポートを完成させる。